

〇20番（川原千秋君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。新政策研究クラブ、川原千秋でございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を始めさせていただきます。

けさは台風9号の影響で少し過ごしやすくなってまいりましたが、連日大変暑い日が続いております。県内でもことしの夏は例年にない記録尽くめの猛暑となりまして、8月の平均気温は、佐賀地方気象台の観測史上最高と、これに並びまして熱中症の搬送者は300人を超え、また、家電量販店ではエアコンの在庫がなくなるほどの異常な売れ行きで、熱中症の対策グッズも、また例年になく売り上げを伸ばしたと、そういったところでございます。

9月になりましたが、まだこの暑さは続きそうな感じがいたします。市民の皆様も熱中症には十分気をつけられて、この夏を乗り切っていただきたいと、このように思うところでございます。

さて、質問に入りますが、今回は大きく2項目質問をいたしますが、まず最初に、地域経済の活性化についてでございます。

依然として景気の低迷が続く中、地域の経済を少しでも活性化できないかと、そういった観点から、今爆発的に利用者がふえているツイッター、これをどうビジネスに活用するか。そして、もう1点は、昨年実施いたしましたプレミアム付き商品券「武雄で買う券」ということでございますが、この効果を分析されて、そしてよければ再度また実施ができないのか。

それから、大きな2項目めといたしましては、地球温暖化についてでございます。

冒頭に申しましたように、ことしの夏の異常さは本当に地球温暖化に伴う長期的な気温上昇が背景にあると、そういうことも言われております。ですから、その対策について質問を行ってまいりたい、このように思っているところでございます。

では、まず地域経済の活性化についての1点目といたしまして、ツイッターやユーチューブの活用についてお伺いをいたします。

8月19日に武雄市文化会館で全国自治体の政策研究交流会議が開催され、その夜に日本ツイッター学会が市役所前の公園で開催されました。私もツイッターというものにちょっと興味があったので参加させていただきましたが、約200人程度の参加者で、大変にぎわった、大いに盛り上がったというようなどころではなかったでしょうか。

このツイッターとは、今何しているから始まったシンプルなウェブサービスで、ユーザー登録をすると自分専用のページが作成をされ、そこから今何しているかを投稿していきます。投稿できる文字数は140文字までに制限されておりますが、利用者がふえるに従って新たなコミュニケーションツール、また、リアルタイムの情報発信が情報発信ツールとして活用されております。

本市も職員にアカウントをつくってもらって今月から活用されていくわけですが、どのように活用していくのか、また、活用に当たってのメリット、またデメリットについて

もお伺いをいたしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これが実際の私のアカウント、すなわち私のツイッターの画面なんですけれども、（パネルを示す）これ非常に簡単で無料で登録ができて、ツイッターというのは、ツイートというのはつぶやくという意味だそうなんですけれども、人によってはミニブログという言い方もされます。その中で先ほど議員からありましたように、140字以内という制約があって、そこに、これ携帯からでも打ち込めますし、今はキーボードがなくても本当につぶやいたものを携帯のマイクが拾って、それをこの文字にするサービスもあるようです。あるいはiPad（アイパッド）だと、今手書きのものがあって、キーボードが使えない、あるいは使いにくい方も、こういうツイッターになるということで、今おかげさまで、これユー 스트リームで流れておりますけれども、おかげさまで今私はもう6,000人近くの方にフォローをしてもらっていますので、私がきょう一番最後に書いたのが、これ職員なんですけれども、「武雄市議会一般質問のU S T、ユー ストリームはこちらから。」ということで、ここにクリックすると、ユー ストリームの画面に飛んでいきます。で、「午前10時スタートです。」というふうに書かれていて、これを私は受けて「メリハリのついた答弁します！」ということを書いて出す。で、先ほど申し上げたとおり、これは瞬時に6,000人近くの方々が見るということになりますので、これは本当に思うのは、例えばイベントの告知であるとか、こういうことがありました。自民党の石破さんが武雄にお見えになったときに、私がこのツイッターで、「あと10分で石破さん来るよ」と書いたんですね、それを見た人たちが十二、三人、武雄市の文化会館の大ホールに押しかけてきて、これはすごいぞと思いました。今車で見て来ましたとかね、何か石破さんを見たいから来たということで、その告知のことで言うと、これはよく瞬時性と拡散性という言い方をしますけれども、これは今までのインターネットのメールであるとかブログである、その比ではありません。

そういった中で、私が日本で初めて行政にツイッターを積極的に導入したのは、全職員にアカウントを今持ってもらっています。これは別に強制するわけではないんですけれども、これをするによって幾つかのことが期待できます。

1つは、行政の中、大体伏魔殿みたいに思われていますけれども、その中でどういうやりとりが起きているかというのを、これはフォローしている人たちはみんなが見られることに——フォローしていない人でも見られるんですね、これは。ごめんなさい、失礼しました。これはフォローしていない人でも見られます。だから、見ようと思えば全世界じゅうの人が見られるということで、行政の中で何が起きているかというのが見える。

それともう1つが、これ私は@h i w a 1118というアカウントを持っていますけれども、

住民相談の一部もこれで受けようと思っています。もう現に来ました。北方町に住む難病患者の方が私にツイッターで、これみんなに見える形で来たのは、難病申請に物すごい手間暇かかるということです。行きようによってはもう五、六カ所行かなければいけない、難病になる前に違う病になりそうだというのが来たんですね。それは私はよくわからなかったので職員に聞いたら、いや、市内にはそういう方が400人もいらっしゃいますと。で、私はその窓口を一元化したいというふうに言ったら、いや、それは法律の壁があって、職員からは無理ですと、それはそうでしょう。したがって、これを一部代行したいと、県に行くやつ、国に行くものについては、市の職員が代行するというのをくらし部長と相談をして、これをまたツイートしたら、これが物すごい反響になりました。

ですので、そういう意味での住民相談になるということと、私にのみならず、職員の皆さんたちがいろんなこういう、私が知らないこういうイベントがあるよとか、こういう情報があって、行政は情報の宝庫であります。ですので、それをどんどん出していくということで、私が掲げるぬくもりのある元気なまちづくりにつながっていくというふうに思っております。ただ、ツイッターをしている人は、多分武雄市の人口5万人のうち、多分1%に満たないとまだ思っています。そういった中で、これは向こう3年から5年間かけて、やっぱり広げていく必要があるだろうというふうに思っております。これはトップダウンで進んでいくものじゃありません。ただ、これをするによって、こんなに便利になるんだよ、こんなに簡単だということを、もうツイッター伝道師と、私は日本ツイッター学会の会長でもありますので、そういうことで、こういう楽しいとかということをやっぴり広めていくというのが、私が首長としての役割だけじゃない役割があるというふうに思っております。

そして、メリットは先ほど申し上げたとおりですけれども、デメリットもあります。これはツイッターの場合は、まだはっきりと言って不完全です。不完全なツールです。議員では吉川議員と牟田議長が始められておりますけれども、お二人も同じ意見だと思っておりますけれども、やっぱり見たり見ていなかったりということがあったりとか、あるいはすぐにこれがリストアップされない場合があります。これは、この前の防災訓練でそれはすぐよくわかりました。

ですので——それとあと成り済ましの問題、あります、現にあります。ですので、そういったデメリットもあるんですが、メリットのほうがはるかに大きいので、デメリットの部分というのは、例えば、後で上書きをすとか、ほかの人が上書きをしていくということで、これを全否定するのではなくて、その機能の持っているデメリットについては人の力で解決をしていこうというふうに思っておりますので、ぜひこれはユーストリームで全国に流れておりますので、日本ツイッター学会にフォローをしていただくと、すぐ我々はフォローし返します。そうすると、そういった情報もどんどん流そうというふうに思っております。

私、これ個人的な見解になりますけれども、私はインターネットに平成9年に初めて触れ

ました。インターネットというものに。そのときに受けた衝撃よりも——これはソフトバンクの孫正義さんもおっしゃっておられるようですけれども、そのときに受けた衝撃よりも今回のツイッターの衝撃のほうが100倍以上あります。これを何とかして行政に取り込んで、住民サービスの一助になるようにしていきたいと。これが我々、特に我々世代に課せられた役割ではないかと、これを今度は社会的弱い立場にある方、高齢者の方々とかということをやっぱり広めていきたいなど、このように考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当に今市長がおっしゃるように、このツイッター、使いようによって本当に便利なツールだと思います。そして、おっしゃるように住民相談、またイベントの開催、本当にこういうのに十分使えるというふうに私も思っております。

そして、1つは、そういったトピックスというような記者会見、そういうものも発表なされて、それに対する答えというのも瞬時にまた返ってくる。そういった意味で市民の反応とか、そういうのも十分見ていけると、そのように思っているところでございます。

そして、また観光情報やまちおこし、こういったものにも本当、非常に有効に使えるものだと思っております。

ただ1つ、私もデメリットというほどではないかもわかりませんが、1つ思うところがあるのは、やっぱり行政というのはいろんな情報がございまして。それで、どうしても余り公表できないといった、そういう情報もあるかと思っております。そういった部分の選別といいますか、そのあたりはどのように考えてあるのか、そこだけお伺いしたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

ツイッターを始める前に、職員に講習会等々を開いて、ツイッターの問題点、あるいは有効性をお話ししたところでございます。言われるように、地公法に抵触しないような形で守秘義務を守るような形で職員に徹底いたしております。そういう意味から、職員の皆さんはそれを遵守してあるというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ぜひ、そのあたりは気をつけてやっていただきたいというふうに思います。

また、今おっしゃったように、職員に対しての研修といいますか講習会、これは行われた

と思いますが、これを市民の方にもぜひ使い方、登録の方法、こういったものを、そういう機会、講座とか研修会、ぜひこういうことをまた開いて、そして広げていきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ことしの夏の初めに、武雄市商工会青年部のお力をおかりいたしまして、旧山内町の議場においてツイッターの市民向けセミナーを行ったところ、やっぱりツイッターでそれを告知したからでしょうか、福岡だったり、長崎からもお見えになって、あの広い議場が結構もう満杯になったということなんですね。ツイッターの講習会をやってほしいという話が多数来ておりますので、これはぜひ出前講座の中でやってまいりたいというふうに思っています。今もう職員の中でも少なくとも私が見て、もう10人ぐらいはどんどん講師並みに話せる人間がいますので、そういった手分けして出前講座をしていきたいというふうに思っておりますので、きょう多くの市民の方々がまたごらんになっていると思いますので、ぜひ出前講座という形で対応をしていきたいというふうに思っております。そして、先ほど申し上げたとおり、吉川議員、牟田議長もおられますので、どんどんやっぱり広めていってほしいというふうに思っています。

その中で、日本ツイッター学会の聖地は武雄であります。ですので、年に1回、スイスのダボス会議のようなといっても私もよくわかりませんが、とにかく全国から、世界じゅうから来るような学会をしていきたいと、がっかりしないような学会をしていくと（笑声）いうことを思っております。それが私は観光にもつながっていく、宿泊に伴う観光にもつながっていく、そして新たな形での地域交流につながっていくと思っておりますので、来年の4月に日本ツイッター学会の総会を開きます。ですので、その中でいろんな事例研修であるとか、そういった中で日本を代表するようなツイッターをやられている方、ツイッターアイドルもまた呼んで、いろんなまた交流をしていきたいと、このように思っておりますので、ぜひ市民の皆さん方におかれても時間を万障お繰り合わせ上お越しいただいて、ツイッターの初級講座もそこで設けようと思っておりますので、お越しいただければありがたいと、このように思っております。

そして、まず何よりもこれは使ってみることが大事です。使ってみることが大事ですので、また出前講座等で、私自身もこれは出席しようと思っておりますので、また広めてまいりたいと、このように思っております。議員の御指摘のとおりであります。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今本当に市長がおっしゃるとおり使ってみなければわかりません。私も登録までは行ったんですが、その先がちょっとまだ行っていませんので、今からまた頑張っていきたいと思います。

そのツイッターとともに、今ユーストリーム、これも合わせた使い方ができるとは思いますが、こういうそのユースト、ツイッターというのを使いながらの、例えば、これをビジネスですね、そういうものに生かしていけないかということです。ユーストでとって、それもまた瞬時に画像が送れる。その中で、こういう例えば商品があったら、こういう商品はどうかとか、そういったふうに何かうまく組み合わせをして、そういう形で配信をする。これまたリアルタイムな情報ということで、そしてまたターゲットもある程度限定がされると、フォローしてくださるような方に流れていくということでございますので、そういった意味では、そういう興味を持ってもらう顧客に直接メッセージが送れるというようなことで、こういうメリットがかなりあるんじゃないかと思いますが、このようにツイッター、ユースト、こういうものをこの企業のビジネス、そういう形に何とかつなげていけないか、そのあたりについて、市長どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ツイッターがビジネスにつながっていくと思います。こういった本も、もう何十冊というふうに読んでいて、私今ほとんどもう読んでいますけれども、これはつながると確信しています。3例申し上げます。

1つは、冷凍食品の加ト吉です。加ト吉は、自称ツイッター部長という人がいて、どんどんどんどん流しています。これは物すごく駄じゃれ満載で、私のは駄じゃれではありませんけれども、おもしろい情報が流れていて、非常に商品、あるいは加ト吉に対する信頼感で買ってみるといふこと、しかもレシピもツイートしているんですね。だから、加ト吉の「おそれいりこだし」という本が出ているんですね、非常におもしろいし、加ト吉のツイッターはすぐ検索すると見られますので、これは一つ参考になる。

それと2点目が、福岡県の「大名なう」です。これはどういうことかという、天神の横、大名ってありますよね、あそこの商店街の人たちがみんなそれに加入をしていて、ハッシュタグという、これは言葉の説明は省きますけれども、それをすることによって「大名なう」というハッシュタグをつけると、もうそれだけで見られるんですね。だから、雨が降っているから今から3割引とかというのを、これをツイッターの割引、ツイ割といいます。そういったことを地域全体が流しているということで、ここにちょっと私は聞いたことがありますけれども、売り上げが場合によっては3割、4割伸びているということを聞きます。

それと、もう1つは、私は市政の最高責任者なんですけれども、ソフトバンクの孫社長が

どンドンつぶやいておられるんですね、「龍馬伝始まるぜよ」とか、あの孫社長が。そうすると、今まで孫社長というのはすごい近寄りたいたい人だと思っていたんですけども、すごい人間的なことをつぶやかれていて、しかもこれは電波が届きにくいとかということについて、すぐ孫社長が「やりましょう」と、これ多分、流行用語になると思うんですけども、「やりましょう」ということを回答されていて、物すごく実は経営者の方々がやっている、やっぱり親近感がわくんですね。

ですので、私も市政の最高責任者として、やっぱり親しみを持っていただくという意味からでも、どンドンどンドン仕事だけに限らず情報発信をしていく。そうすると、武雄市に関心が必ず出てきます。私は武雄市長ですので、もうつぶやいた瞬間に武雄というのが自動的に出てきますので、そういう意味での情報発信というのは経営者の方々がぜひやられるといいのかなと思っています。

そして、これは最後にしますけれども、今先ほど申し上げたように、きょうも何かどンドンどンドンこのユーストリーム見て私のフォロワーがふえています。そうすると一つこれは私が情報の結節点という役割があるんですね。普通の方々というのは、そのフォロワーが50人とか60人なんですけど、私がそれを見た瞬間にリツイートという機能があります、ボタン1個で。それを流すと5,000人、6,000人、そして孫社長なんかは、50万人から60万人のフォロワーがいるんですね。ですので、そういう意味での私は情報の結節点になりたい、あるいは拡散点になるということが、これからの私の役割だろうということは思っていますので、ぜひそういう意味でも私を活用していただければありがたいというふうに思います。ブログ市長からツイッター市長に変身を遂げてまいります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当にこれがどンドン広がっていけば、もう画期的なことになるかと思えます。このツイッター、ユーストをうまく活用して、先ほど申しましたように、企業のビジネス、こういったものにつなげていく、これは本当に無限の広がりを見せると思えます。

また、行政におきまして、例えば、今おっしゃるように、市の情報、これをリアルタイムに発信をする。そういうことによりまして、例えば、多くの若者、若い人たち、例えば、余り政治に関心がないと、そういった方たちにもこの政治に関心を向けるきっかけにもなるかとも思えます。ぜひ、このようなICTを活用して、情報の共有を高めて、地方自治を充実させていただきたいと、このように思うところでございます。

では、次に移ります。

プレミアム付き商品券「武雄で買う券」についてお伺いをいたします。

このことについては昨年の9月の一般質問で取り上げましたが、プレミアム商品券の使用期間が8月末で、換金が9月15日ということでしたので、事業の効果はあったという御報告を受けましたが、詳細な内容についてはまだわからないということでございましたので、今回、再度取り上げたわけでございます。そのときに、この商品券の使われ方等についてお店と消費者の両方にアンケートをとって、その結果を分析し、また次回の参考にするとといった御答弁もございましたので、アンケート調査を踏まえ、どのような分析をなされたのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

プレミアム付き商品券「武雄で買う券」の実績でございます。

まず、発行総数は1セット1万円に15%のプレミアムをつけまして、1万セットを発行いたしました。これの発売状況ですけれども、2日半ぐらいで完売をいたしております。商品券の換金につきましては、1億1,454万4,500円ということで換金率が99.6%で、地域別、あるいは業種別の結果についてでございますけれども、まず、地域別では旧武雄市で9,700万6,500円、84.69%、北方町で1,055万2,500円、9.21%、山内町で698万5,500円、6.1%というふうになっています。

次に、業種別の結果でございますけれども、まず一番多かったのは、その他小売サービス業で2,494万6,000円、21.78%です。次が飲食料品小売業で2,291万7,500円、20.01%、次に大型各種商品小売業で2,107万4,500円、18.4%、次に中小、小型の各種小売業で1,544万7,500円の13.49%で、医薬・化粧品で791万1,500円の6.91%となっています。この5つの業種で大体80.55%の換金となっています。

次に、アンケートの結果でございますけれども、「商品券取扱店として実施をいただいた感想は」ということで問いかけをいたしております。「大変よかった」というのが19%で、「よかった」という回答をいただきましたのが55%、合わせて74%で、よかったという結果となっております。

「商品券の利用はありましたか」ということについて問いかけをしましたところ、「ありました」というのが100%、「お客様の反応はいかがでしたか」ということで、「好評だった」が50%、「普通」が50%、これについても好評だったというふうに思っています。

「売り上げ増加に結びつきましたか」ということでの問いかけにつきましては、「結びついた」が23%で、「前倒し効果があった」ということで31%、これを足しますと54%で、消費需要の喚起にはなったのではないかというふうに思っています。

「店独自の特典を実施しましたか」という問いかけにつきましては、「しなかった」というのが74%でございます。「事業の継続を希望しますか」ということでは、「希望をする」

が31%、「どちらでもよい」が54%で、85%の方は大体肯定的にとらえられているのではないかというふうに思っています。継続を希望されているのではないかというふうに思っています。

「継続する場合、手数料負担が予想されますが、どのくらいなら負担可能ですか」という問いかけに対しまして、「発生したらやめる」という方が48%いらっしゃいましたけれども、問8です、最後に、「今後改善が必要と感じることがあれば具体的に記入をしてください」という問いかけをしております。その回答として、「利用できる店舗などのチラシを作成し、折り込みをしてもらえれば手数料の二、三%は発生してもよい」ということですので、ここら辺の問題点を改善すれば手数料負担についてもやむなしというようなアンケート結果というふうになっています。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

アンケートの結果を今御報告していただきました。

これを見る限りでは、本当にやってよかったということじゃないかと思えます。確かに負担もありますが、これをやることによって、その地域の活性化、また、いろんな購買意欲もわいてきて、そういう店のほうにおきまして本当にいい結果じゃなかったかと、このように思うところがございますが、そして、そういう結果を踏まえて、今回は、佐賀県におきましてもこの商品券、プレミアムの商品券を実施しているのが9市町村ということ、この前、以前の新聞に載っておりましたが、市でいきますと唐津、伊万里、神埼、鳥栖、町のほうでは白石、牛津、吉野ヶ里、江北、大町、この9市町村で今取り組まれているか、今度取り組まれるかですけど、ことしの取り組みということでございます。

確かに昨年はいろんな交付金という財源がありまして、そういうのをもとに商工会議所、また商工会に御協力をいただいてできたわけですけど、今回、そういった補助金、交付金があるかどうか私もわかりませんが、そのあたりも含めてお伺いしたいんですが、そういった部分で今後——今後というか、ことしがもう今は9月ですので、12月に間に合うかどうかわかりませんが、そのあたりを考えながら、ことしそういうことをやるのかどうか、そのあたりについてお伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

瀏野営業部長

○瀏野営業部長〔登壇〕

今後の商品券の発行予定ということでのお問い合わせということと思えますけれども、現在のところは計画はございません。今後、国の経済対策等ございましたら、これにあわせ商

工団体と一緒に考えていく必要があるかというふうに思っています。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今回はもう計画がないということですね。できれば、このアンケートの結果も悪い結果じゃございません。店側または消費者側の反応もいいと思いますので、これはぜひ、またもちろん財源ですね、問題は。財源が問題と思いますが、ぜひまたやっていただきたい。私のほうにも消費者の方からも、そういったことをまたできないのかというような要望も来ております。

そして、私が考えますのは、ただ、そういう補助金だけに頼ってはだめなんです。例えば、商工会、商工会議所、またはお店が、やっぱり独自のサービスといったこともやっぱり考えていって、そして、ただ、こういうプレミアムイベント的なものは一過性ですので、継続してできるような、そういったことも、そういう地域、例えば、お店、そのあたりは個人的にでもしっかり考えながらやっていかなければならない。そういうことも考えております。ただ、こういうプレミアム券は一つの起爆剤、そういう部分に使えるかと思っておりますので、もし、今後そういう予算措置ができるんなら、ぜひいろんな検討も含めながらやっていただければと、このように思うところです。答弁お願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

どんどん国の補助金が減っていく。そして一般財源もこれだけの不況下でなかなか先細りをしていく。なおかつ住民訴訟で多大な市民負担がこうむられている状況にあるといった中で、これを行政が先鞭をつけてやるということはなかなかこれしんどいものがあります。ただし、先ほど川原議員からありましたように、商工会議所であるとか商工会が、いや、みんなで盛り上げていこうよということで、プレミアム商品券という話が自発的に話が出てきたら、これは我々としては地域経済の活性化、再生を含めて、先ほどの営業部長からも答弁がありましたように、一定の効果があるというふうに、それは私自身も認識をしておりますので、これはきちんとやっていきたいと。

それと、さっきのアンケート結果で思ったんですけど、これ、公表します。やっぱり我々アンケートをした責任として、一部のもの、あるいは私たちだけで独占するというのは、これ許される時代じゃありません。それは感謝の意を込めて、これはちょっとその概要については概要になりますけど、市報できちんと報告をし、そして全部についてはホームページに掲げたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当にそういった意味で、地域の活性化ということでしっかりこれからも取り組んでいただきたい。そして、さっきのアンケートでございますけど、お店側のアンケートだと思います。できれば消費者のほうのアンケート、こういったものもしっかりとっていただいて、そして公表をしていただければと、このように思うところでございます。

では、次に移らせていただきます。

地球温暖化対策として、1点目に、LED照明の導入について質問をいたします。

近年、よくLEDという言葉を目にしますが、このLEDとは、ライト・エミッティング・ダイオードといいまして、この頭文字をとってLEDというわけでございますが、直訳すれば光を放つダイオードでございます。このLEDの照明が今注目されていますのは、消費電力が蛍光灯の3分の1、また電球の10分の1で、寿命が約5万時間、少なくとも10年以上は交換しなくていいということで、大変経済的、そしてまたスイッチを入れれば瞬時に点灯をすると、そしてそういった寿命が長いということで、球がえが困難な、例えば、体育館というような高いところに、そういう場所には持ってこいというようなものでございます。そして、夜間についても、夜間つけていても虫が寄りにくい、そういった長所もございます。そういったことで、例えば、ナイター照明や街路灯、防犯灯、そういったものにも適していると言われております。

このように電気料金の削減やCO₂排出量の削減にもなることから、地球温暖化防止として今注目をされているわけでございますが、問題なのは初期投資、これが高いというところが問題だろうと思います。LED照明にかえるには現時点では諸経費がかかり過ぎるということで、今見合わせているところも多いというふうにも聞きます。これから技術革新が進んでいけばもっともっと安く取りつけられると思いますけど、ただ、私が思いますのは、そのコスト面だけを見るのではなくて、地球温暖化防止対策の環境問題のそういった観点から見ますと、やはりこれは早急に取り組むべき課題ではないかなと、このように思います。市としてこのLED照明の導入について、どのようなお考えをお持ちなのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

LED、いいですね。ただ、これも私も何でいいというふうに思ったかということ、実は環境課の樋渡君のお兄さんが東京の三菱マテリアルの幹部社員なんです。あわせてその事業本部長が西川登の出身であるということで、東京に出張の際に三菱マテリアルに行って、

ちょっと私、いろいろ教わってきました。

しかし、でもこれは恐らく今LEDが私がいいと言っても、多分一般の使っていない方々というのは多分わからないと思うんですね。本当に白熱灯とLEDを比べるところで見たんですけど、こっちのほうがよく、もう本当に目にも優しいし、そして本当の太陽に近い自然の色ということで、本を読んでも全然疲れぐあいが違うんですね。

ですので、これをまずその補助金を設けるさきに、市の場合は物すごく白熱灯を使っています。例えば、この議場もそうですし、2階もそうです、市役所の中もそうです。あるいは白岩体育館、文化会館の大ホール、小ホールとかみんなそうですので、可能な限り今後かえていきます。かえていって、市民の皆さん方が本当にこれはいいんだということをまず体感してもらおうということがまず先だろうというふうに思っておりますので、そういった中で、これ実は地元の豊田合成さんが一生懸命、今発光ダイオードの観点から進められておりますので、そういったその後押しもきちんとしていきたいというふうに思っています。

それでこれは、本当にラッキーなのは、豊田合成さんと三菱マテリアルさんと物すごく連携されているんですね、連携されていますので、そういう意味からでもいろんな活用方策というのは、今現に三菱マテリアルさんとは伊藤理事を通じて話をもう進めつつありますので、そういった中で、やっぱり地元のその先輩がそこにいらっしゃるという観点からも、ぜひ、将来的には企業誘致につながればいいなというふうに思っておりますし、まずつくっておられるものを我々が見せて、それで市民の皆さんたちに納得をしていただいて、そういった形で二重三重に広げていくということが私たちの役割かなと、このように認識をしております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

まずLEDにかえていく、これは本当に大事なことだと思います。そのかえていくにも、いろんな予算というのがあると思います。そういった中で、今武雄市で武雄市地球温暖化防止率先行動計画というのを今策定されております。これは温室効果のガスの排出削減や省エネルギーへの取り組み、こういったものを実践するというので、この計画を作成されていると思いますが、この中身について少し御説明をいただきたいと思いますが。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

地球温暖化防止率先行動計画のお尋ねでございますけれども、武雄市では今年2月に武雄市役所で、行政として取り組む武雄市地球温暖化防止率先行動計画を作成したところでございます。この計画の中で、武雄市が行う事務、事業から発生する二酸化炭素の排出量を平成

25年度までの5年間のうちに、平成19年度と比較いたしまして5%を削減するということを目標として掲げているところがございます。

具体的な取り組みの内容といたしましては、庁舎の省電力・省エネルギー、ごみの減量とリサイクル、職員の環境に対する意識向上などを掲げているところがございます。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

この内容でございますが、省電力・省エネルギーの推進というところがあったと思いますが、そういった部分で今言っておりますこのLEDの照明の導入、そういった部分の計画は入っていないんですかね、そのあたりをお伺いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

お尋ねの省電力・省エネルギーの項目の中で、LEDの項目がないかということですが、11項目ほどいろんな庁舎の設備等について挙げておりますけれども、今回LEDについては項目としては挙げておりません。（43ページで訂正）

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

これができたのが昨年ですかね、2月。やっぱりその時点でも、もうLEDがすばらしいということはわかっていたと思うんですよ。ですから、こういう計画は省電力・省エネルギーの推進ということでございますので、LEDに対する取り組み、確かに今この器具、電球高額でございますので、一遍にかえるというのはなかなか難しいところもあると思います。そういった部分を考えますと、年次計画を立てて、こういう中でやっていくというのが大事じゃないかと思いますが、ぜひこういうLEDの照明の、武雄のLED化推進計画といいますかね、そういった部分をぜひ策定をしていただけないかなと思いますが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

すみません。先ほど省電力・省エネルギーのところLEDの話申し上げましたけれども、申しわけありません。先ほど11項目の項目の中に、省エネルギー機器設備の導入を図るという項目の中で、LED蛍光灯、電球型蛍光灯等の消費電力の少ないものも切りかえるということで項目がありましたので、申しわけありません。おわびして訂正いたします。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

やっぱり入っておりますね、そしたらいいんですけど。だから、それは入っているのはいいですよ。だから、それをもとに、そういうことがもとになって、年次計画をですよ、例えば、やっぱり高いから一遍には無理でしょう、全部交換するというのは。だから、そういうのを含めてずっと年次的に、今度はどこ、今度はどこかです、そういうのも必要じゃないかと思うんですよ。そのあたりいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど答弁いたしましたように、切れたときに切りかえてまいりますので、それは計画云々よりも、むしろそれは大きく温暖化の防止計画の中の1つの項目として、これだけマクロの意味で進めていこうということを書きたいと思います。そして、先ほど申し上げたように、切れたときには可能な限りLEDと交換していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

そして、もう1点なんですが、街灯、防犯灯、これについてです。

これも今LEDのほうにかえていくというのが全国的にも広がってきているわけですが、なかなか今市の予算ですね、15万円ぐらいですか。1つの自治体、国がですね。それじゃ、なかなかちょっと難しいだろうということもあります。だから、このLEDというのを、一般的な街灯のそういう補助金でとらえるのか、極端に言えば、今の太陽光のエネルギーみたいなそういう1つの補助金という部分でとらえるのかというやり方があると思うんですね。

LEDにかえるということは、確かに今は初期費用が高い。しかし、これが10年間のスパンで見たときに、電気料とかいろんな部分で考えれば安くなるし、また環境面にもいいと、そういうことを踏まえて考えますと、この太陽光発電と、こういうLEDの照明、これもある程度似たところがあるんじゃないかと思うんですね。だから、どうしても街灯、防犯灯では無理なものですから、そういった部分の何か施策はないか、その点についてお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、川原議員はやっぱり時代の最先端を行かれていますね。やっぱり、例えば5年前に調べたら、LEDの電球の値段というのは今の3倍ぐらいしているんですね。ということは、5年前の今3分の1でもう買えると、安いものについては買えると、といった場合に考えたときに、これだけLEDの普及が広まっていくと、多分3年後というのは半分以下に落ちるということ。市民負担を考えた場合に、私はその時点で一斉に切りかえることができるのかなと思っています。今の場合だと、ちょっと余りにもコストが高過ぎるということと、それはやっぱり、多分、私の力だと議会を通し得ません。これだけ厳しい議員さんたちがいて、もっとそれはもう少し時間をかけてしたほうが良いということになると思いますので、それはやっぱりコストが下がっていった時点で打つということ。何でも早ければいいという問題じゃないと思うんですね、それはポイント、ポイントを見て、やっぱりその市民の利益が最大限になるところを選んで政策を打っていく、そして予算にかかわる問題になりますので、議会の御承認を求めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当にこの環境問題、地球温暖化問題、いろんな問題がございますが、今国のほうも以前京都議定書ですか、CO₂の削減、そういったこともやっております。そういう意味で来年度の予算、概算要求で環境省、これは温暖化対策ということで5%増の2,175億円というのを要求しているということで、これも先ほど申しました2020年までの温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減をする、しなくちゃいけないということで、そういう予算も立っていると思いますので、そういったものも含めまして、国としてもそれを達成するにはやはり地方自治体にもお願いしなくてはいけないし、いろんな部分で国民にもお願いをしなくちゃいけない。そういう中で、やっぱり補助金ということも打ち出してくるのではないかと、そのように思いますので、そういった部分も有効に今後活用していただきたい、そのように思いますが、その点について最後に答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

現在のところ市のほうでの補助については考えておりませんが、ただ、先ほど議員おっしゃいますように、地球温暖化の対策の一環として、市報、出前講座等、先ほど申し上げておりますLEDの効果等を紹介するなどして、普及啓発を今後図っていきたいと考えているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今私が言ったのは、国とか県とか、そういった部分でLEDの照明に対する補助とか、そういうのがないかということなんです。市が出すのじゃなくてね。そういうのをアンテナを張って見ておっていただきたいと、そういうことです。はい、いいです。

では、次に移ります。

最後にですけど、北方運動公園グラウンドの芝生化についてでございます。

この芝生化については、昨年の3月定例会の一般質問で校庭芝生化についてということで取り上げた経緯がございますので、今回、質問いたすわけでございますが、ことしの6月の終わりか7月ごろだったと思います。北方の運動公園の横を車で通っておりますと、何かグラウンドの中央のほうに緑のものが見えたわけですね、これは何かなと思って車をとめて寄ってみました。そしたら、このグラウンドの真ん中、ど真ん中に芝生が張ってあるわけですね。私も何でグラウンドの真ん中に芝生かなということで驚いたわけでございますが、これを見た方は、私だけじゃなく皆さんある程度そう思われたんじゃないかなと思います。グラウンドのど真ん中ですよ、ぽんと。ちょっと私もびっくりしたんですが。

それで思ったのが、このグラウンドは多目的なグラウンドであり、いろんなスポーツに使うと。サッカーもあれば、少年野球もあれば、ソフトボール、それからほかのいろんな、グラウンドゴルフとかいろいろ使うわけですね。ここの真ん中に芝生を張って大丈夫なのかというのが一番先に頭の中でよぎったわけですけど。いろいろ調べてみますと、これは武雄市が事業主体といいますか、武雄市が行ったということを知ったわけですね。どういった経緯で芝生を植えるということになったのか、そのあたりについてまず伺いをいたしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

北方運動公園の芝生化につきましては、白岩球場と同じようなトラック以内の芝生を行っているところでありますけれども、これ平成21年6月の北方町まちづくり推進協議会の総会で、自主事業として芝生整備について取り組むことが決議をされております。そこで、市へ予算措置を講じてほしいというふうな要望がなされております。その後、内容等の検討調整の結果、北方運動公園グラウンドを対象としたいということであったために、文化・学習課が担当でございますけれども、さまざまな点について協議していく中で、まず武雄市の社会教育施設として利用者団体の合意を得ることということ及び定植後の芝生管理について協議会で行うこと、この2点のことを実施に向けての条件として提示をしたところであります。その後、協議会で利用者団体との調整がとれたというふうなお話でございましたので、平成

22年3月議会の補正予算で予算のお願いをしたところであります。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今経緯をお伺いしましたが、ただ、北方町まちづくり協議会から要望が出された。そして、利用者団体との調整がとれたという報告を受けたということでございますが、それで予算措置を講じたということでございましたけど、その利用者団体との協議、これは余りなされていないんですね。私も少年野球とか少年サッカーの方にもお伺いをしました。そしたら事前の、そういう話は全然なかったということです。ですから、やはりこういうことをやるというのはやっぱり利用者団体の方にまずしっかり御了解をいただいて、そういう芝生を張るといのは使えない期間もあるわけですから、そのあたり十分考えながらやっぱり取り組んでいかなくちゃいけないと思うわけですよ。市としてはそういうことをお願いしておったけどということでございますが、実際はそういう状況でございます。

先日、市長あてだと思いますが、陳情書というのが届けられたというふうに聞いておりますが、これはやはり真ん中に芝を張ってもらっては困るということで、もとに戻してもらえないかという陳情書だったと思いますが、こういう陳情書が利用者団体から出るということは、やはり事前に話し合いができていなかったということじゃないんですか。そのあたりについてどのようにお考えか、まずお聞かせをいただきたいと思いますが。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今議員がおっしゃられるように、陳情書等も出たということで、我々としては十分な調整ができたというふうに返事を聞いておりましたので、理解をしておりましたけれども、そういうふうな要望等が出されるということについては、不十分なところがあったのかなというふうな懸念は今抱いているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

私もこの芝生化、以前3月ですね、先ほど申しましたように、昨年3月の一般質問で校庭芝生化ということで取り上げました。私はそのときは、やはり地球環境温暖化防止、そういうことを含め考えますと、やはりやるべきだなという考えでございました。そのときの部長の答弁ですよ、「こういう芝生化というのは、社会体育施設、そういったものに影響を及ぼすということで、関係団体と協議をしなければならない」と部長がおっしゃったわけですね。

ですから、そういうお考えがあって、今回こういうことになったというのはどういうことなのかと思います、そのあたりはいかがお考えですか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今議員が言われるように、確かに昨年の議会の中で、私のほうで関係団体との協議を社会教育施設についてはきちっとしなくてはいけないということで申し上げておりましたし、先ほど申し上げたように、利用者団体の合意を得るということを前提に話をしておりましたので、この部分ができたというふうな報告を受けて予算化をしたということになっているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ですから、私が申し上げたのは、やっぱりそこまで利用団体という部分の配慮を本当にもっとしなくちゃいけないんじゃないかということです。まちづくり協議会が「オーケーですよ」と言われて、「ああ、そうですか」と、それで済むのかどうかですね。そういうことを思ったわけでございます。

そして、昨年の3月議会で申しましたように、そういう芝生、これは鳥取方式の芝生なんですけど、これは芝生を植える時点から、例えば、子どもたちとか、ボランティアの方に御協力をいただいて植える。なぜそうするかというのは、やっぱり植えれば愛着もわきますし、今から管理もしていかなきゃいかんなど、やっぱり地域で盛り上がってくるわけですね。だから、私はそういうことをするとき、ぜひ子どもたちを入れて、ボランティアの人も巻き込んで、皆さんでやろうよということをやっていたら良かった。今回、業者でやっておられるわけですが、その点、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

確かに、昨年の議会のときに川原議員のほうからそういう質問があって、できるだけそういうことは後々のことも考えれば、そのほうがいいだろうということで申し上げておりました。今回につきましては、協議会から自分たちで植えてみたい、植えたいというような話がありましたけれども、その芝生を確実に定着させるためということを含めて考えて、業者に発注したというふうなことでございます。

もう1つ協議会のほうにお願いをしておりました定植後の芝生管理については協議会で行うということをお願いしておりますので、ぜひそこで地域の芝生といたしますか、町民の芝生

という形でぜひ管理をお願いしたいということで考えているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

もちろん地域の芝生、地域で管理する、それはもう当然だと思うんですよ。だから、そういう子どもたちとか、ボランティアの方、まちづくりの協議会の方、皆さんが一緒になってやっぱりやるべきだったんですよ。それは確かに定着しなかったら困ると思いますよ。でも、それはやり方があるんですよ。例えば、業者に全部やってもらうのではなくて、そこに業者が幾らか来てもらっても、やり方をさせていただいて、そこに子どもたちがポットの1つでも植えれば愛着がわくじゃないですか。ぜひそういうやり方を、もう今回やってありますのであれですけど、今後また芝生化ということになれば、ぜひそういうことも含めて考えていただきたい、このように思うところでございます。

このまちづくり協議会の中で決定されて、市のほうに要望されたという経緯でございますが、このまちづくり協議会の中で決定されたということでございますが、多分総会で決定されたと思います。しかし、その全般の部会というのがまちづくり協議会の中にあるわけですね。その前段の部会の中では、やはり芝生化というのは維持管理が大変だろうということで、これはやめたほうがいいんじゃないかという、部会の結論はそういうふうになっていたということも聞き及んでおります。総会の中でも、実際皆さん全員が賛成じゃなくて、やっぱり反対もいらっちゃったということでございますので、確かに総会というのは最高の議決機関でございますので、決定は重いわけでございます。それはわかりますけど、そもそも協働のまちづくりということは、やっぱり住民の総意、そして住民総参加で地域の住みよいまちづくりを目指す、そういったものだと私は認識しておりますが、市長、その点についていかがお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そういった流れというのは、今初めて知りました。部会というものがあって、その中でかんかんがくがくの議論があった上で総会があって、そのときに何か欠席者が多かったとかという話で、ちょっと今初めて聞きましたので、私としては今ここでどうだということは申し上げられませんので、ちょっと時間を置いて調べたいと思っております。

その上で私としても、基本的にはこれはもう自治事項に関することだと思うんですよね、自治事項に。ですので、まちづくり協議会の意思を我々としては予算の範囲内で最大限尊重するというのには私たちの意向でありますので、ただ、その流れでどういうふうになったのか。これはですね、病院問題のときもさんざんたたかれたんですね。本当に協議会があれとか、

もう本当に。だから、その部分については我々は出せる議事録も全部出して、そこで、いや、やっぱりこれはおかしくなかったということで今多くの市民の方々が納得されていますので、そういった意味での調査はちょっとやりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ぜひそのあたりもお願いしたいと思います。

私が思うには、運動公園のグラウンドということで今回されたわけですが、地球温暖化の防止とか、例えば、地域の緑化ということ、それだけの考えでございまして、北方支所の裏に北方グラウンドというのがございます。そこだと、すぐ小学校が隣接をしていますね。そして、こっちには幼稚園がございます。ですから、そこですと金網も張って安全でございまして、そこを芝生化したら子どもたちもゆっくり遊べるし、走り回れるし、そして、情操教育ということの観点からもよかったんじゃないかなと思うんですけど、そこまでは考えられなかったんですか、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは教育委員会、行政がこうすべきだという問題ではないと思います。これはすぐれて北方町における自治の問題だというふうに思っております。まさか芝生が火がないところで燃えるというのは夢にも思いませんでした。ですので、これはぜひまちづくり協議会でさまざまな意見を再度、聞かれていますと思いますが、聞いていただいて、北方町の総意としてやっていたかかないと、やっぱりこれ、スタートの地点に立ったばかりなんですね。ですので、北方の自治としてこれはやっぱり行う必要があるだろうということは思っております。

その中でぜひ、私は実は各町のまちづくり協議会でいろんな関係があります。朝日町であるとか、東川登であるとか、いろんなのがありますがけれども、ここ各議員がやっぱり入られているんですよ。ですので、これは私の一方的な意見になるかもしれませんが、5人の議員、北方町から選出をされておられますので、ぜひまちづくり協議会の中に、やっぱり市民の総意を受けて議席を占められているわけですので、ぜひその中に入っていただいて、議論の中にぜひ入って、そこでこれからこうしていこうということを、川原議員も先ほどの意見をその協議会の場でおっしゃっていただいて、それを総意として、どういう意見になるかということ私はわかりませんが、そういった総意として進んでいければありがたいというふうに思っております。

私のところにも要望書であるとか、陳情書であるとか、もう北方町を歩いていても賛否両

論あります。何か私がやったというふうに言われていますけど、これは社会教育施設ですので、これは教育委員会の専権でもありますし、しかも我々は教育長ともよく話しますけど、可能な限り北方町の皆さんたちの意見を尊重しようということで進めてきておりますので、そういうプロセスを今後も大事にしていきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

私たちもこのまちづくりの協議会、北方のですね、本当は入りたかったんですよ、最初ね。例えば、山内とか旧武雄ですね、皆さん入っておられます。ただ、北方だけが入っていない——入っていないというか入れてもらえてなかったということになるわけですけど、ぜひこれを機にして一緒にやっていきたいとは思っています。

北方のこと今いろいろ言いましたが、やっぱりこの北方町というのはずっと流れがございまして、こういう今のグラウンド、こういう一帯の整備、そういうことで旧北方町の時代からの中で、ちょうど北方中学校が移転をしました。そのときに中央公民館やスポーツセンター、運動公園、そのグラウンド、それからサンスポーツ、テニスコート、こういったものをそこに集中させたわけですね。つまり、文化施設と体育施設が一緒になったというようなことで国からも評価をされた。そういったことがありまして、以前北方——今の北方支所ですが、その横に公民館がございました。その補助金を本当だったら返さなくちゃいけなかったんですけど、そういう一つのモデルケースみたいなのところできたということで、国としてはそれはいいだろうということになったと、そういうこととか、公民館の建設にも大きな補助金もついた。そういった経緯がありまして来ているわけでございますので、その中の運動公園のグラウンドというのも入っているわけでございます。だから、これは多目的としてぜひ本当に使っていかなければいけないグラウンドでございますので、いろいろ申し上げたところでございます。

そして、今サンスポーツがあって、北方中学校のグラウンドがあって、運動公園のグラウンドがあります。だから、例えば、少年野球とかだったら6面とれるわけですね。そういうのも必要なんですよ。例えば、少年野球大会の大きな大会があるとき、また、実業団の女子のソフトボールのリーグ戦、そういったときにはやはり近くにその施設がある。やっぱりそれが一番メリットといいますか、利便性がいいわけですから、そういったことも含めて考えていかなければいけない、そのように思っているところでございます。何か市長、答弁ございますか。

〔市長「いや、結構です」〕

ないですね。では、そういうことで今後、今の問題、ちょっと戻りますが今の問題ですね、

今真ん中に張ってあります。それをどうするのか、その点、何かお考えがあったら、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

先ほどの支所の裏のほうの芝生化とかというようなこともありましたけれども、先ほど市長が申されたように、北方町まちづくり推進協議会の中で広く町民の意見を収集して決定をしていただきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

では、これからどうするのかというのを北方町のまちづくり協議会の中で、私たち議員も入りまして、ぜひ考えていきたいとこのように思います。

では、以上で終わります。